

令和6年度 第二学童クラブ ぽーしゃな事業報告書

1. 学童クラブの運営

1) 定員 40名 (2・3・5年生)

2) 月別入所児童数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
2・3・5年生	31	32	31	29	30	28	26	25	25	24	24	24	329

3) 職員数

令和6年度初 3名

令和6年度末 4名

4) 職員の採用、異動、退職

①採用

氏名	年月日	資格	備考
	R6.7.29	無	補助員

5) 職員会議の開催状況

- 職員会議は毎月一回開催し、日常の保育の様子や気づいた事・伝達事項・行事計画等について話し合い、評価、反省等を保育の見直しや実践に生かした。更に会議録を作成し、全職員に会議内容を通達した。
- 毎日の伝達は口頭の申し送りや指導員連絡ノートを活用し、職員全員で情報を共有した。

6) 自己評価表 別紙

2. クラブの学童保育の実施状況

1) 指導目標

家庭との連携を図りつつ、放課後及び長期休暇期間における、児童の自主的学習及び遊びを通して、健全な育成を目指した。

2) 学童保育時間

平日	14：00(下校迎え時間)～18：00	(ルンビニ保育園下車の方は19：00まで)
土曜日	8：00～18：00	(ルンビニ保育園下車の方は19：00まで)
長期休暇期間	8：00～18：00	(ルンビニ保育園下車の方は19：00まで)
早朝	7：30～ 8：00	(ルンビニ保育園、事前申し込みが必要)
延長時間	18：00～18：30	(ぽーしゃなにて)
	19：00～21：00	(ルンビニにて)

3) 学童保育内容

- 宿題に主体的に取り組めるような声掛けを行い、自力で解けない課題については、理解しやすい言葉で説明し、児童が意欲的に学習できるように支援した。
- 年間22回のE C C英語教室と、年間10回のいむら体育教室を実施した。
- 「なかよし」通信を毎月発行、ホームページを随時更新し、児童の現状と学童の活動内容を保護者に周知した。
- 送迎バス利用の際はシートベルトの着用徹底、乗車のルールを守るよう指導した。
- 散歩等で学童の近隣を散策し、自然の移り変わりを実感できるように支援した。
- 針尾体育室の利用や、戸外での遊びを通して、安定した友人関係の構築や、体を動かす楽しさを体験する機会を増やした。
- 乱暴な言葉遣いの児童には、もっと優しく話すように指導し、落ち着いて行動する習慣が身に着くような声掛けを行った。
- 熱中症予防対策の為「健康カード」に朝食内容の記入欄を設け児童の健康状態を確認し、暑さ指数(WBGT)が28度を超えた場合は、屋外活動を控えた。
- 食育の一環として、大根を栽培し、収穫の喜びを体験することができた。
- 親子レクレーションを実施し、学童での児童の様子や人間関係を見てもらったり、保護者同士や職員とのコミュニケーションを取りやすい環境をつくった。

4) 実施した主な行事 別紙

3. 給食等の実施状況

- 偏った献立にならないよう、川棚給食センターに依頼した。
- アレルギーがある児童はいなかったが、食事面で気になる児童の家庭との連絡を密にした。
- 衛生面からテーブルの消毒を行い、手洗いの指導をした。

4. 健康管理

- 職員の定期健康診断を、5月に実施した。
- 職員の検便を月1回専門業者に依頼し「赤痢菌、サルモネラ菌、O-157」の検査を実施した。
- 子ども達の、帰着後・食事前の手洗い・消毒の指導をした。

5. 感染症等の対策

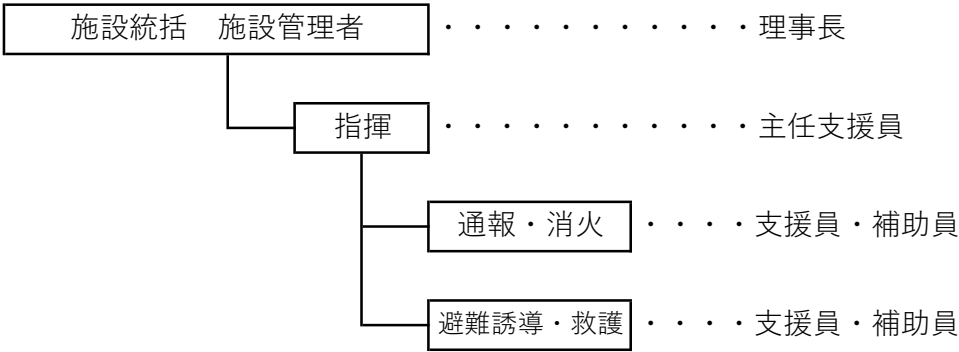
- 室内では常時換気をし、ストリーマー空気清浄機を使用した。
- 児童の「健康カード」を作成し、受け入れ時、昼食前、検温を行い健康状態の把握に努めた。
- 体調不良の児童は、保護者に連絡して早めのお迎えをお願いした。

6. 非常災害危険防止の実施状況

- 年に10回、避難訓練を実施。11月に全職員参加の消火訓練を行った。
- 隣接する保育園の避難訓練にも参加し、非常階段を使った避難の仕方、又

お	おさない。
か	かけない。
し	しゃべらない。
も	もどらない。

- の避難訓練の基本を学び、防災意識を常に持てるように心掛けた。
- 避難訓練中の私語多多く真剣に取り組めない時もあった為、避難訓練と命の大切さを伝えた。
- 非常災害に対する職員配置（第一・第二 合同）



7. 子どもや保護者等からの要望・苦情等

- 友達から強い口調で意地悪を言われ、「学童に行きたくない」と言っている。
対応・・・当該児童には個別に聞き取り・指導を行い、悪口を言いたくなるくらい嫌な事があったのなら、職員に相談するようによく伝えた。その後、全児童に「友達には優しく接するように指導した。
- 言葉遣が怖い児童がいて嫌だと言っている。
対応・・・全児童に乱暴な言葉遣いをしないように指導した。
- 何もしていないのに、友達にビンタされたと言っている。
対応・・・当該児童に叩いた理由を聞き取り、自分が同じことをされたらどう感じるか考えさせ、自分のしたことの重大さに気づき、心から謝罪できるように促した。人を傷つけるような言動をしないように指導した。

年 間 行 事 実 績

月	行 事 名
令和6年4月	・歓迎会 27人 ・グラウンド遊び 13人、14人 ・お誕生会 21人 ・ECC英語教室 11人 ・こいのぼり工作 10人 ・巡回図書 はまゆう号 22人
令和6年5月	・巡回図書 はまゆう号 30人、32人 ・ECC英語教室 20人、15人 ・グラウンド遊び 16人 ・お誕生会 22人 ・いむら体育教室 22人 ・避難訓練 9人
令和6年6月	・ECC英語教室 18人、12人 ・メッセージカード作成 12人 ・いむら体育教室 17人 ・お誕生会 17人 ・巡回図書 はまゆう号 22人
令和6年7月	・いむら体育教室 23人 ・ECC英語教室 13人、15人 ・お誕生会 24人 ・巡回図書 はまゆう号 23人 ・避難訓練 24人、12人 ・福井洞窟ミュージアム見学 3人
令和6年8月	・ECC英語教室 19人、11人 ・ビジターセンター見学 5人 ・旧七夕 25人 ・避難訓練 22人 ・ペーパールービック工作 18人 ・金魚工作 10人 ・お誕生会 17人 ・アレンジおやつ 27人 ・プラネタリウム見学 19人 ・鮮鼓堂 工場見学 3人 ・避難訓練 23人 ・駄菓子屋さんごっこ 24人
令和6年9月	・ECC英語教室 18人、15人 ・いむら体育教室 18人 ・巡回図書 はまゆう号 22人 ・お誕生会 19人
令和6年10月	・ECC英語教室 9人、12人 ・大根の種まき 7人 ・グラウンド遊び 16人 ・巡回図書 はまゆう号 28人 ・お誕生会 19人 ・いむら体育教室 19人 ・避難訓練 19人
令和6年11月	・ECC英語教室 4人 ・グラウンド遊び 13人 ・巡回図書 はまゆう号 24人 ・いむら体育教室 16人 ・お誕生会 17人 ・避難訓練、消火訓練 全職員
令和6年12月	・いむら体育教室 15人 ・グラウンド遊び 10人、12人 ・お誕生会 16人 ・巡回図書 はまゆう号 20人 ・ECC英語教室 11人、16人、17人 ・年賀状作り 13人、8人 ・避難訓練 15人 ・大掃除・お楽しみ会 14人
令和7年1月	・段ボール遊び 7人 ・巡回図書 はまゆう号 19人 ・お誕生会 19人 ・いむら体育教室 12人 ・大根の収穫 9人 ・ECC英語教室 13人、7人 ・グラウンド遊び 12人
令和7年2月	・いむら体育教室 18人 ・節分ごっこ 18人 ・鬼の工作 7人 ・ECC英語教室 16人、17人 ・お誕生会 16人 ・避難訓練 13人 ・ひなまつり工作 6人
令和7年3月	・いむら体育教室、親子レクレーション 18人 ・ECC英語教室 18人 ・お誕生会 15人 ・虚空蔵山散策 18人 ・お別れ会 17人

令和6年度 学童クラブ ぽーしゃな 自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	評価理由、今後の改善目標など
環境・体制整備	1	利用定員が施設スペースとの関係で適切であるか	○			定員に対する施設基準は満たしているが、折りたたみ式の机を学習する時など出すと、手狭に感じる。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			規定の職員数を配置している。
	3	施設の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		車椅子や、松葉杖の児童の受け入れは困難。玄関などに取り付け型のスロープや、階段にリフトがあると、少しは改善できるのではないかなと思う。
業務改善	4	業務改善を進めるため目標設定と振り返りに、広く職員が参画しているか	○			職員会議にてPDCAサイクルにのっとり全職員で進めている。
	5	保護者等向けアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			年度末に、保育参観参加保護者と、系列保育園の年長園児の保護者を対象にアンケート調査を実施。アンケート内容を業務改善の参考にしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公表しているか	○			ホームページで公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評議結果を業務改善につなげているか			○	第三者による外部評価は行っていない。職員会議等で、常に業務改善について意見を出し合っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			順次研修を受けている。オンライン研修等は複数人で受講し、発達障がい等の研修は、受けていない職員が優先的に受講している。
適切な支援の提供	9	子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、学童クラブの計画を作成しているか		○		計画書の作成はしていない。子どもや保護者のニーズをアンケート等で確認し、長期と短期の目標などを立て、計画書を作成できればより良い保育につながるのではないかなと思う。
	10	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			細やかな課題や目標の設定は行っていないが、日程・行事の変更はその都度声掛けし、自由参加型のレクリエーションを提供している。外遊びの充実を図り、健全な遊びの提供を目指している。
	11	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせて学童クラブの計画を作成しているか		○		活動は基本的に児童の意思に任せている。集団活動をする場合、集団で何かすることが苦手な児童には必要に応じ、個別に支援している。
	12	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日の行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		職員揃っての打ち合わせはできないが、毎日、児童を受け入れる前に気になる事は出勤している職員間で口頭の確認を行っている。
	13	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		退勤時間が異なるので、終了後の打ち合わせの時間が取れないが、トラブルや気になる点は、伝達ノートに記入し、職員間で情報共有をするようにしている。
	14	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		支援内容の記録はとっていないが、出席簿などに行事内容、薬の管理内容、伝達事項等を記録するようにしている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	評価理由、今後の改善目標など
関係機関や保護者との連携	15	学校との情報共有、連絡調整を適切に行っているか	○			下校時間・学校行事等をFAXをもらっている。学校からの連絡が遅れる事もあるので必要に応じ、確認を行っている。特に障がいを持った児童は、担任の先生との情報共有を密にした。
	16	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		系列の保育園と情報共有を図り、よりよい支援につなげているが、その他の保育園とは情報共有が難しい。
	17	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	発達障がいの研修は受講しているが専門機関との連携はない。様々な特性の児童が多いので、必要に応じて研修だけではなく、関係機関に助言してもらう事は必要ではないかと思う。
	18	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	○			問題行動の多い児童に対しては言動に注視し、いつもと違う様子があれば保護者に伝え、自宅や学校での様子を把握できるように務めた。
保護者への説明責任等	19	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			支援内容や利用者負担については重要事項説明書に記載し、説明会を開催している。希望者には、その都度重要事項の内容説明を行っている。
	20	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			お迎え時等に必要に応じて行っている。もっと相談しやすい環境を整えていく必要があり、安心して相談できるようにしていきたい。
	21	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情については、速やかに対応し、出来るだけ早期の改善・解決ができるように心掛けている。
	22	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月発行している「なかよし」や、ホームページを随時更新し、学童の活動内容、苦情・要望の内容等を掲載している。
	23	個人情報に十分注意しているか	○			針尾福祉会の個人情報保護の規定を守っている。
	24	学童クラブの行事に地域住民を招待する等地域に開かれた運営を図っているか			○	地域との交流はほぼないが、長期休暇に社会科見学等で外部の人との交流を図っている。
非常時等の対応	25	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			全職員には周知出来ているが、全てのマニュアルは保護者に通知していない。特に重要な災害・緊急時の対応は重要事項説明書に記載してる。
	26	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			定期的に、避難訓練を実施した。児童が真剣に取り組めていなかったため、命の大切さや、身の守り方等をその都度、話をした。11月に全職員参加の消火訓練を実施した。避難訓練については、通常の状態だけではなく、一番困難な状況を想定して行った方がよいのではないかと思う。
	27	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか			○	いじめ・虐待防止研修を受講した。職員会議等で適切な対応が出来ているのかを定期的に確認する必要があると思う。問題点が浮上した場合は、その都度対応している。
	28	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			医師の指示書に基づき、保護者から情報提供してもらっている。アレルギーのある児童には、給食センターで除去食を準備、対応できない児童はお弁当を持参してもらっている。おやつは準備する職員と、提供する職員とでダブルチェックを行い、ノートにおやつの内容とチェックを行った職員のサインを記録している。
	29	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		ヒヤリハット事例集はないが、伝達ノートにトラブルや苦情、危険だった事柄を記載し、職員会議で情報の共有、改善に努めている。